

## **成田空港活用協議会の設立について** **(設立趣意書)**

1978年に開港した成田空港は、日本の表玄関として成長を続け、2010年10月の発着容量30万回の合意以降は、国際線・国内線の新規就航や増便、本邦系LCC2社の新規就航など、成田空港を取り巻く動きが活発化している。また、成田空港への鉄道・バスアクセスの向上や圏央道の木更津東一東金間の開通などにより、成田空港を中心とした広域的な人・物・財の流れの創出という新たな可能性が生まれてきている。

この新たな動きを取り込み、成田空港の高まるポテンシャルを千葉県経済の活性化につなげるため、2011年12月「グレード・アップ『ナリタ』活用戦略会議」が設置され、官民一体となった議論を重ね、昨年9月には、「成田空港を活用した経済活性化戦略」（提言）を取りまとめた。

提言では、30万回化で拡大する人・物・財の流れを、単に都心にだけではなく、成田空港を中心に県全体さらには首都圏全体へと変えていくこと、この拡大する人・物の流れをより強化するための空港利用者の利便性・快適性の向上とアクセスのさらなる充実、成田空港をはじめとする「千葉の魅力」を国内外に広く発信していくこと、などといった、今後、取り組むべき戦略が掲げられている。

この戦略を実現していくために、オープンスカイの実施や開港35周年など成田空港が国内外から高い注目を集めているこの機会を捉え、経済界や民間の事業者、行政といった幅広い主体が結集し、成田空港を活用した本県経済の活性化の取組を「オール千葉」で一丸となって進めるべく、「成田空港活用協議会」を設立するものである。

本協議会では、コラボレーション、パートナーシップ、シェアリングの3つのコンセプトに基づき、「オール千葉での『相乗効果の最大化』」を実現するユニークな事業を実施し、加えて、民間のアイデアを取り込むための会員からの事業提案制など新たな事業フレームを構築していく。

こうした新たな枠組みによる活動は、新しい時代の成田空港と本県経済の発展の道筋を描き出し、成田空港の成長と地域経済の発展が連動した「本県経済の好循環」が生まれるものと確信し、ここに本協議会を設立する。

平成25年7月31日